



①堤防の段差を越えるためクレーンで重機や資材を吊り上げていく。②基礎となるコンクリートブロックを3段に積んでいく。③長さ4㍍の筒を慎重に動かしていく。④火薬を設置するためにクレーンに吊るされて筒の中に下りていく。⑤船で打ち上げ場所となる東堤防に渡る。⑥発射スイッチ。中央左のボタンを押すと発射する。⑦三尺玉から導線をつなぎ発射スイッチへ配線する。

緊急事態！台風接近

打ち上げ1週間前、きばらん海事務局では実行委員が浮かない顔をしてインターネットを見つめていた。大型で強い台風トトをじつと見つめている姿がありました。大型で強い台風9号が南海で発生、夏台風特有のゆづくりとした動きに不規則な進路のため、花火大会が実施できるかの判断に頭を悩ませているところでした。この状況が数日続いた後、直撃はしないと判断。三尺玉の仕込み作業は当初、打ち上

「さつま黒潮『きばらん海』枕崎港まつり」のファイナーレを飾る九州で唯一の三尺玉花火。直径90㌢、重量280㌔の三尺玉は上空約600㍍まで上がり、直径約600㍍広がります。その桁違いの大花火の迫力は、見る人に大きな感動を与えています。今回で4回目の打ち上げとなりました三尺玉花火ですが、この打ち上げにかかる費用300万円は市民の寄付によるものです。しかしながら、この三尺玉が、どのような過程で上がるのかを知る人は少ないかもしれません。そこには様々なドラマがありました。

4トロの筒が聳え立つ

打ち上げ場所は枕崎漁港東堤防の先端から50㍍ほど手前。堤防入口から歩いて10分ほど場所ですが、簡単に「打ち上げ準備完了」とはいきません。それは堤防には大小数か所の段差があるからです。堤防に入つてすぐに最大の難所、3㍍はある段差にぶつかります。ここでは、地元の建設会社のクレーン車が資材やトラック、さらには少し小ぶりのクレーン車までも吊り上げて段差を越えていきます。ほかに数か所ある小さな段差には鉄板を敷いて対応しました。打ち上げ場所までのルートが完成し、午後から基礎造りが始まりました。基礎には一辺1.5㍍もあるコンクリートブロックを使用。これをクレーン車で吊り上げて、囲いをつくるように3段に積み上げていきます。この作業が終わると中空になつている中央部に砂をまき、上に畳2枚を敷い

たあとでようやく筒の設置と

三尺玉が上がるまで

九州で唯一、ここ枕崎で打ち上げられる三尺玉花火。今年も市民の想いが詰まつた三尺玉花火が鮮やかに夜空を彩りました。今回、三尺玉が上がるまでを取材しました。

